

生徒主体の中瀬中学校を地域と共につくることにより、次代の地域を創造する。



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
杉並区立 中瀬中学校	中瀬中学校学校運営協議会 平成24年10月1日 設置	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 4名 1名	中瀬中学校学校支援本部「結」



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

生徒の学校生活や授業についての肯定率が8割を超え、否定率も1割を切った。学校をリードしようと挑戦する3年生の姿勢も定着し、生徒の自治能力も向上してきた。

さらに、自分たちから地域や世界に関わり、より良い未来を切り拓いていく生徒が育つ学校となるためには、生徒主体の学校づくりがキーワードである。そのために、生徒たちが疑問をもち深く考え、主体的に学校をつくり、多様な大人とやりとりする機会を増やしていく必要があった。

目標や目指す姿(学校)

生徒が「～させられる」学校から、
生徒が「～する」生徒主体の学校に進化する。

目標や目指す姿(地域)

子供の生きる力を学校と共に育み、子供たちと大人が力を合わせて文化を創造する地域。



中瀬中学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地域コーディネーター
 - 保護者・PTA関係者
 - 民生児童委員
 - 青少年委員
 - 商店街代表
 - 地域子育て支援NPO
 - 簡易裁判所民事調停員経験者
 - 大学教員
- など、計 **12** 名で構成
年間平均 **11** 回程度開催

効果的な運営の工夫

- 生徒・保護者からの学校評価(自由意見部分)について、学校運営協議会で協議し、対応策や意見をまとめ、応答している。
- 教職員の異動により学校運営の軸がぶれることがないよう、学校運営について協議(例:運動会の個人種目をフリーエントリー制に、係をボランティアにし、やるかどうかを含めて生徒が自分で決め『挑戦』『応援』『貢献』する運動会が定着)。
- 地域学校協働本部のカウンセリング部が中心で、生徒・教職員・学校運営協議会・地域学校協働本部等でグループエンカウンターを行い、安心できる人間関係を構築している。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

生徒の主体的活動を支援するため、年に2回、委員と生徒会役員の意見交換会を行っている。テーマは「理想の中瀬中の生徒像」「標準服改訂に際し、中瀬中に相応しいのは制服か私服か」「中瀬生の服装のルール」など。また、生徒の地域との交流に対する関心も高かったため、生徒が地域住民へ学校を紹介する活動を実施することを提案した。



生徒会役員との意見交換会

地域学校協働活動

校庭の外周には生徒・教員が地域住民と協力して作ったビオトープがあり、授業等で利用している。地域コーディネーターはそこを地域の学び合い教え合いの拠点とすることを考え、生徒主体のガイドツアーの場とした。ツアーの内容は生徒が協議し、就学前の子供を含む地域住民に対して定期的に開催している。



近隣の保育園児を案内

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

- 1、地域学校協働本部の複数のメンバーが学校運営協議会委員となり、協議内容を地域学校協働本部に伝え具現化を図るとともに、地域学校協働本部での進行状況や課題を学校運営協議会で協議している。直近の成果としては、・学校図書館の充実のため地域学校協働本部に図書館支援部を新設 ・異学年小人数グループワーク(R4はSDGsがテーマ)を継続的に実施するためのファシリテータ(学校運営協議会委員)の活用
- 2、年に1回行っている学校運営協議会委員と教職員のグループワークに、地域学校協働本部のメンバーも参加。

取組

成果・効果

【学校アンケート 結果】

	指標1		指標2		指標3			
	生徒	保護者	生徒	保護者	生徒	教員		
H27	72 %	74 %	13 %	11 %	66 %	62 %	68 %	60 %
R3	85 %	84 %	3 %	5 %	88 %	76 %	76 %	78 %

【学校アンケート 生徒の自由意見】

「自分達の目指すものをかかげ常に考え続ける中瀬は変わらないでほしい。自由を人に求めるのではなく、自分たちで考えて交渉しに行く度胸を生徒全員がもてたら中瀬出身の生徒が本当に社会に影響あたえるような人達になる。」

「ビオトープを大切にしてほしい。中瀬中学校のように自然が豊かな中学校はあまりないと思いますし、中瀬中の一つの個性だと思うからです。」

- ◆ 赤ちゃん交流の様に地域から学校への提案をもとに授業が形となったり、中瀬検定(先人の言葉や名文を覚え暗唱する)に保護者を含むたくさんの地域の方が検定官として参加するなど、学校と地域が対等な立場で協働するようになった。
- ◆ ファシリテータに支援された異学年少人数のグループワークを経て、生徒が自分たちでグループワークを行えるように成長し、生徒会役員が「生徒主体の中瀬中」を作っていく理念としての『中瀬生徒憲章』を令和3年度の生徒総会に提案し、採択された。